

令和6年1月20日

南の風 499

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

今回は若いコーチ（経験が浅いコーチ）が陥りやすい失敗について、鈴木氏が語ったことを書きます。また、この南の風で以前に取り上げた AND の才能（相反する二面性を同時に手にできる才能）についても触れていますので、参考になればと思います。もう一つ、鈴木氏は「理念」「環境」「信頼」「責任」「規律」の5つを土台として、その上に「分析」「戦術」「技能」「コンディショニング」を積み上げ、さらにその上に「戦略」「意欲」「価値観」、そしてその上に「卓越性」「相乗効果」があり、ピラミッドの頂点が「偉大」なチームとして語っていることも前提として、読み進めていただけると幸いです。

若いコーチはチームを強くするという意欲にあふれていて、情熱を持って指導に取り組む方も多いです。野心を持って、強豪校の仲間入りを目指す方もいるでしょう。しかし、若い指導者は自分が持っている引力と、選手に課す斥力のバランスが悪くならないように注意しなければなりません。つまり選手がコーチに対して感じている「引力」が小さいのに、一方的な熱意から「斥力」を強めてしまうことがあるのです。

若いコーチはまだ実績も経験もありません。強豪校のコーチのように、選手を引きつけるだけのブランド力や説得力がない場合がほとんどです。そういう段階でいきなり強いチームがやっているような厳しい規律を取り入れたらするとピラミッドのバランスが崩れてしまいます。

引力の中で一番強く働くのは、選手一人ひとりの「うまくなりたい」とか「勝ちたい」という気持ちです。選手にこの気持ちがあるから厳しい練習も頑張れるし、厳しいルールも守ろうと思えます。強豪校にはこういった素養を持つ選手が多く入っています。ところが、若い指導者の方がこれから強くしようと思っているチームには、そういった素養を持つ選手がいることは稀です。そういう未熟な選手に対して、強豪チームの選手と同じようにできるはずだということからスタートしてしまうと、選手の気持ちは離れてしまいます。

焦っても良い結果は生みません。一見遠回りですが、まずは選手の内面を変えるところから始めます。バスケットボールを好きにさせ、信頼関係を作り、先生の期待に応えたい、もっとうまくなりたいたいと思ってもらえるように働きかけるのです。

ただし、まだ選手の意識が低いから規律は何もなくて良いというものではありません。意識が上がってきたからといって途中で規律を強くすると、これも反発を招きやすいものです。どんなチームでも最初から理念に沿った最低限ルールは決めておかなければなりません。ここでも引力と斥力のバランスに気をつけることが肝心です。チーム作りに迷ったら、ピラミッドを真ん中から積み上げましょう。その上で、左右の石をしっかりとバランスよく作り上げていくが重要なのです。

続けて鈴木氏は、「一流は相反する両面を同時に手にする」といい、次のように語ります。

人間の能力の一つに「AND（アンド）の才能」というものがあります。相反する二面性を同時に手にできる才能のことで、人の「魅力」にも通じるものがあります。

「二兎を追うものは一兎をも得ず」ということわざがあります。 続きは次号にします。